

最上小国川ダム

MOGAMI-OGUNIGAWA DAM

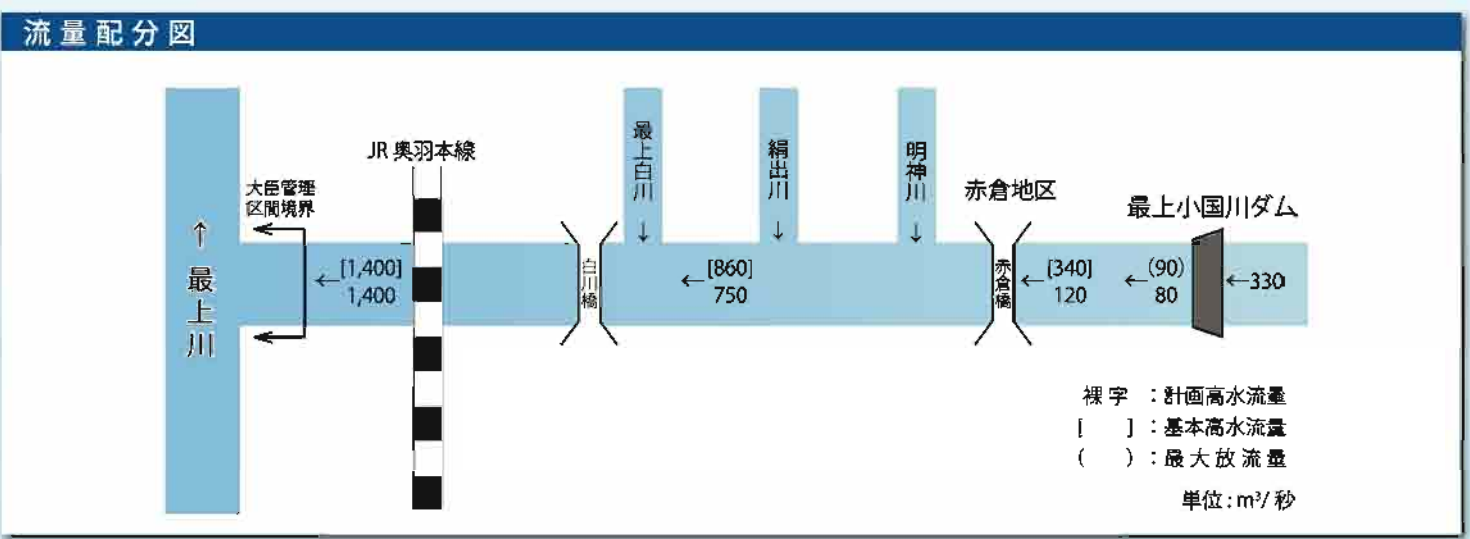
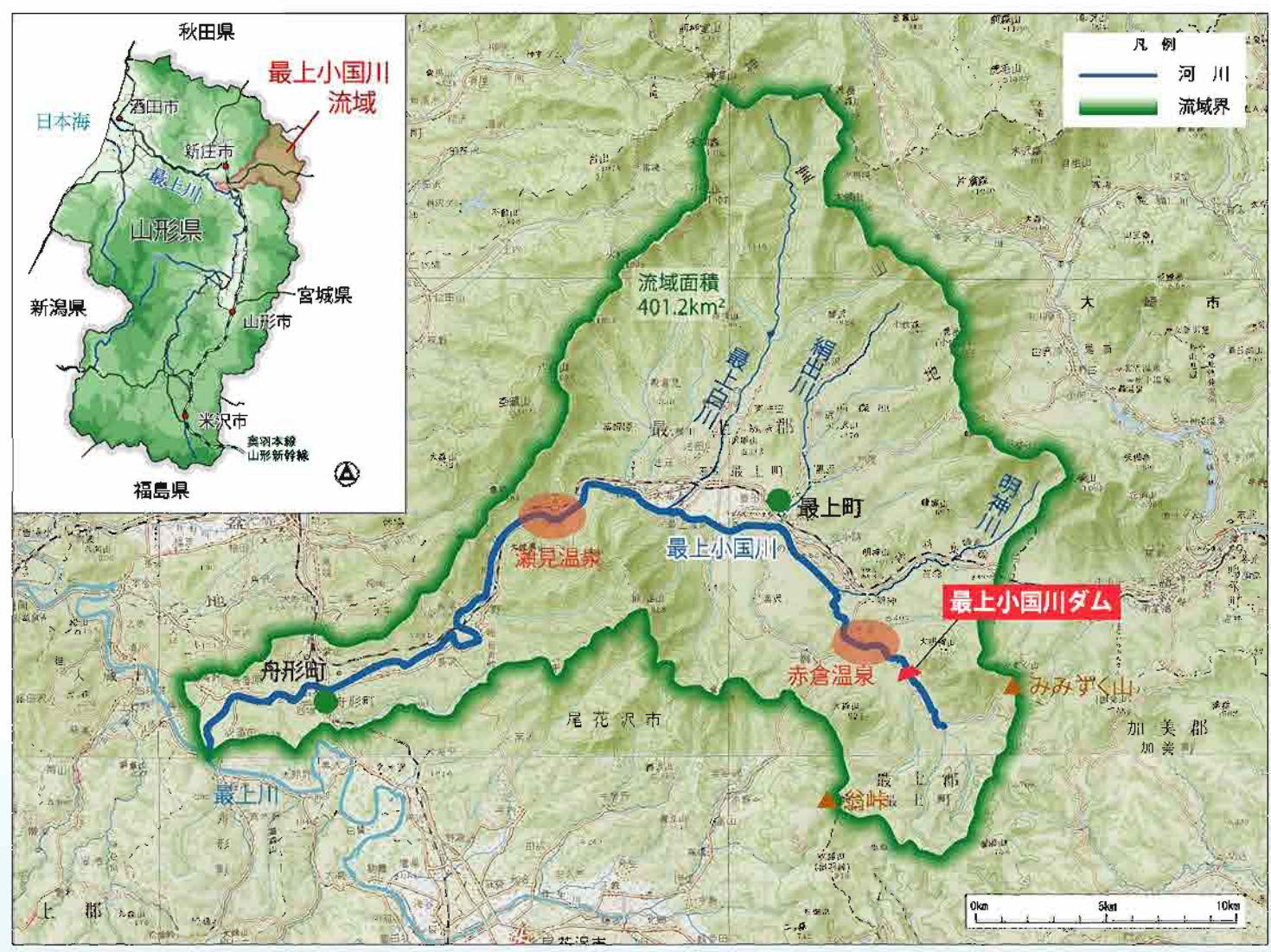


山形県最上総合支庁

1 流域の概要

最上小国川は、山形県の北東部に位置し、宮城県境の翁峠から、みみずく山に連なる山々を源とし、緋出川、最上白川などの支流をあわせて最上川に合流する一級河川です。最上川の支川では、鮭川、須川、寒河江川に次いで4番目の流域面積（401.2km²）を占め、最上町と舟形町を貫流しています。

最上小国川流域は、東北地方でも雨の多い地域であること、イチヨウの葉のような形で数多くの支川が合流すること、さらに広葉樹を多く含む豊かな山林が多いことから、年間を通して豊富な水量を誇り、沿川の自然や産業を育んでいます。



2 ダムの目的

最上小国川の沿川一帯は、昭和 30 年代から 40 年代にかけてたびたび大きな洪水被害が発生しています。特に、昭和 49 年 8 月の集中豪雨による洪水は、床上浸水 61 戸、床下浸水 278 戸におよぶ甚大な被害をもたらしました。これらの災害を契機に、最上小国川では多くの箇所での河道改修が実施されています。

しかし、赤倉地区では、温泉旅館等が川沿いに立ち並んでいるために河道の拡幅や河床の掘削が制限され、抜本的な河道改修に至っていないことから、近年においても洪水被害が発生しています。

このような状況から、赤倉地区住民の人命と財産を守るために、早急に治水対策を講じる必要があります。

八月一日
集中豪雨にみる



軒下までうずまった赤倉温泉街



▲ 平成6年9月洪水



赤倉温泉の橋流失

▲ 昭和44年8月洪水
出典：広報もがみ220号



▲ 平成21年10月洪水



▲ 平成10年9月洪水



◀ 平成18年12月洪水

3 ダムの概要

流水型ダムの特徴

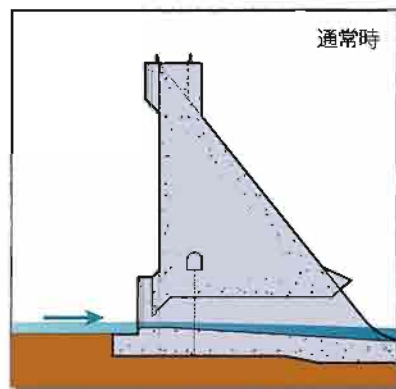
流水型ダムとは、ダムの持つ様々な機能のうち、治水の機能に特化した目的で建設される、常時水を貯める必要のないダムの一形態です。最上小国川ダムは、この『流水型ダム型式』を採用しました。

治水 ・洪水時には一時的に洪水を貯留し、下流沿川の洪水被害を軽減します。

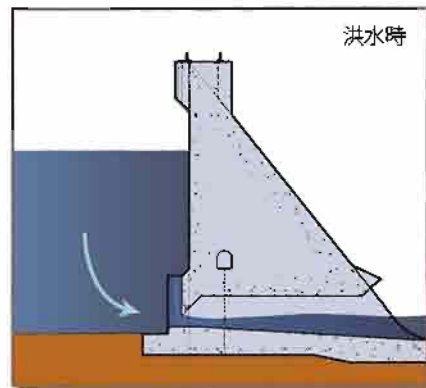
利水 ・利水機能はもたず、通常時はダムに水を貯めません。

環境 ・通常時はダムに水を貯めないため、流入水とほぼ同じ水質が維持されます。
 ・上流から流れてきた土砂を全て捕捉するのではなく、流水と同時に土砂が流れます。

■イメージ図



通常時はダムに水を貯めません。



洪水時はダムに一時水を貯めた後、徐々に水を流します。



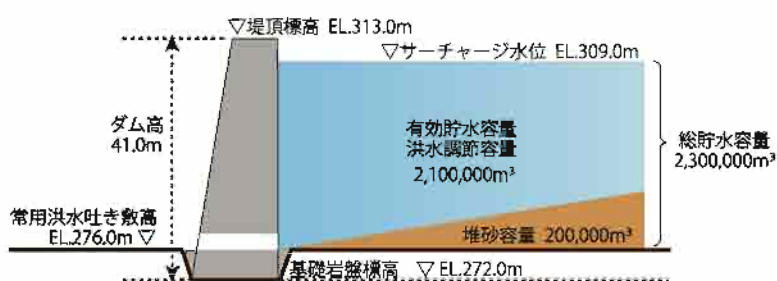
■貯水池諸元

集水面積	37.4km ²
湛水面積	0.28km ² ※サーチャージ水位時
総貯水容量	2,300,000m ³
有効貯水容量	2,100,000m ³
堆砂容量	200,000m ³
設計洪水水位	EL.311.5m
サーチャージ水位	EL.309.0m
常時満水位	EL.276.0m

■ダム諸元

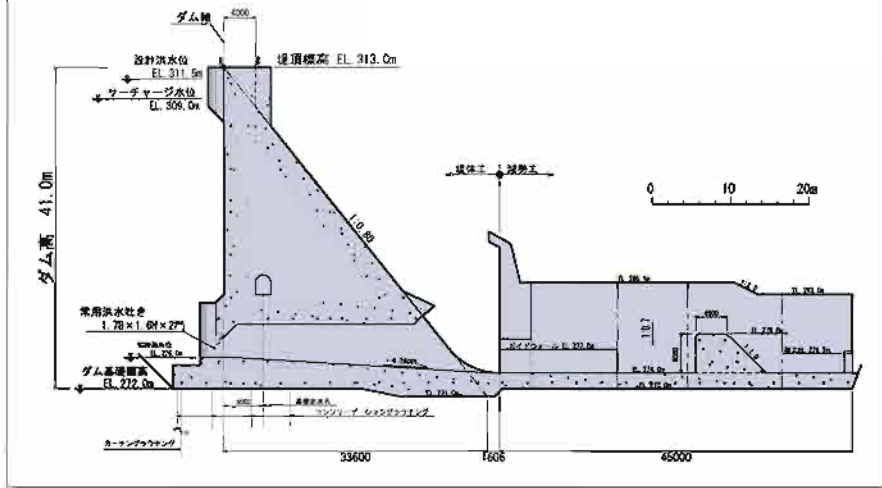
位 置	山形県最上郡最上町大字富沢
河 川 名	一級河川 最上川水系 最上小国川
形 式	重力式コンクリートダム
目 的	洪水調節
堤 高	41.0m
堤 頂 長	143.0m
堤 体 積	39,800m ³
堤 頂 標 高	EL.313.0m
堤 体 法 勾 配	上流鉛直 下流 1:0.80
堤 頂 幅	4.0m
常用洪水吐き	幅1.7m×高さ1.6m 2門 (オフィス・自然調節)

容量配分図

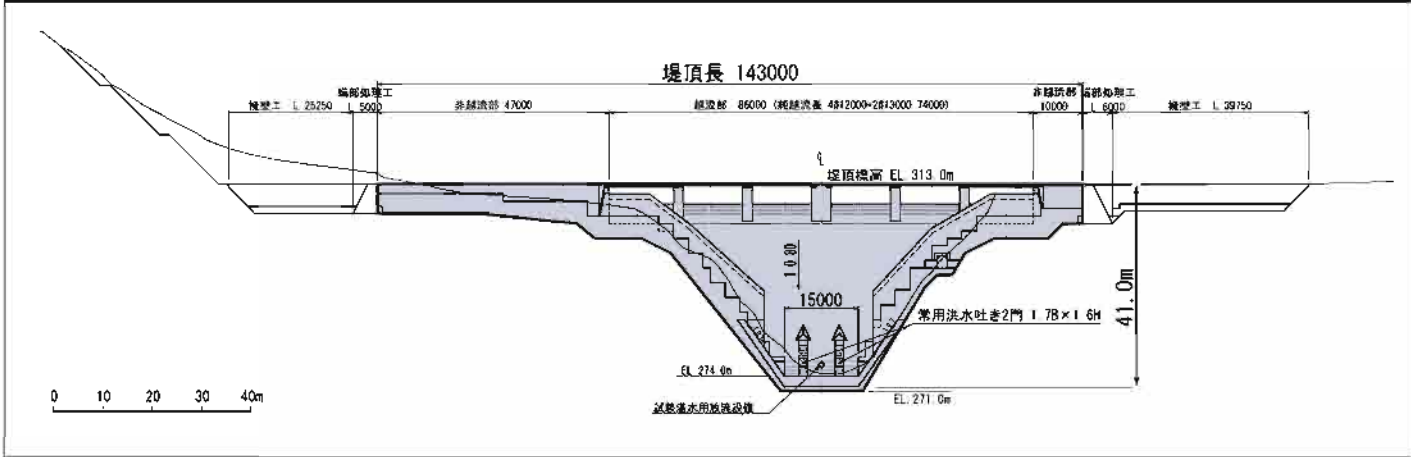


4 ダムの構造

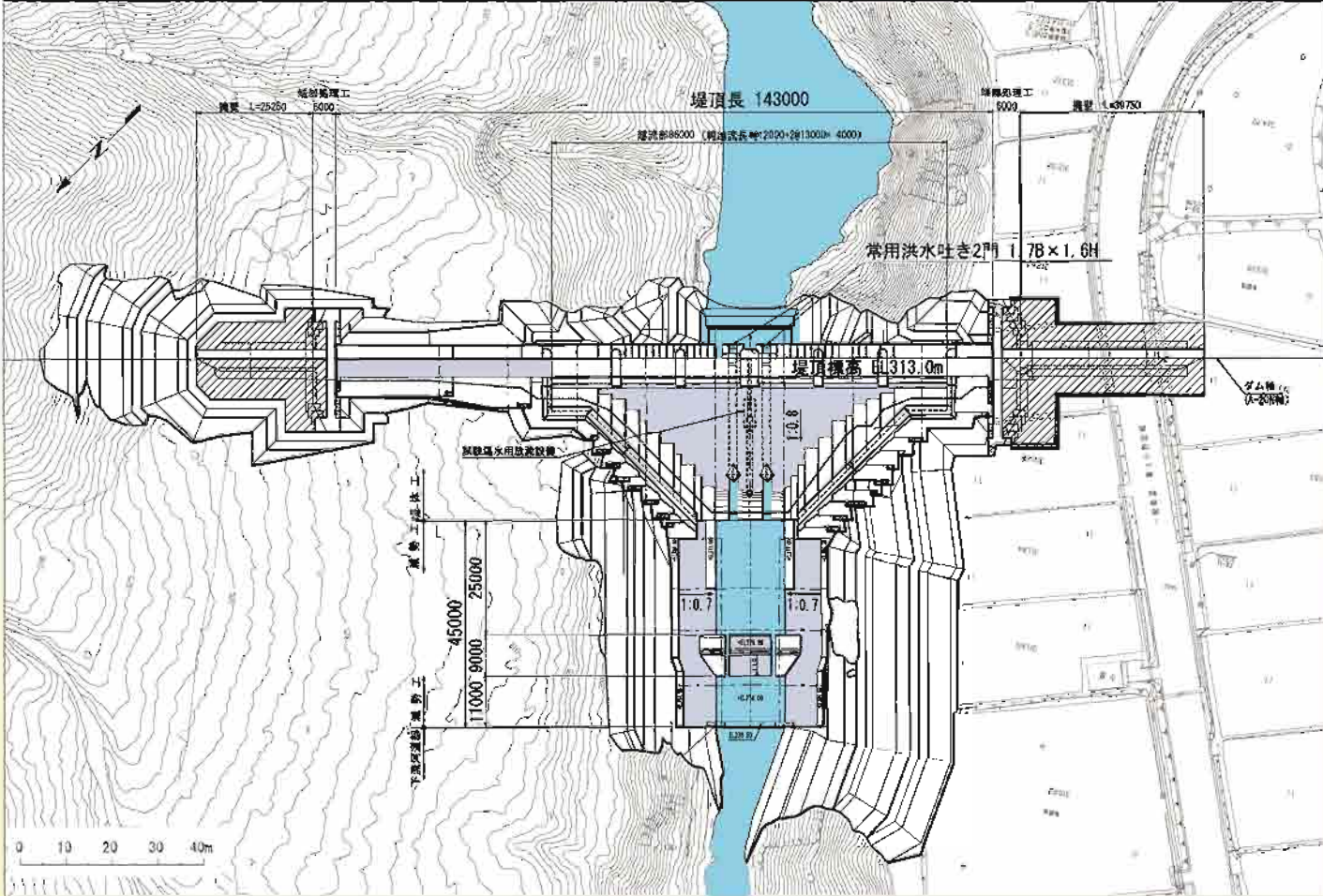
標準断面図



下流面図



平面図



最上小国川ダム周辺の 名所・旧跡

神室山
1365m



① 赤倉温泉

慈覚大師によって貞観5年(863年)に開湯されたという赤倉温泉。源泉かけ流しの天然岩風呂が有名です。毎年1月15日頃には、たいまつを持った男達が無病息災を祈願して温泉街をかける「お柴灯祭」が開催されます。



⑥ 前森高原

広大な草原に乗馬体験施設、陶芸館、キャンプ場などがあり、手作りソーセージ・アイスクリームなども楽しめます。大人から子供まで楽しめる体験型レクリエーションゾーンです。



② 赤倉温泉スキー場

良好な雪質に恵まれ、また頂上からの眺めも壮観で、豊かな自然の中のスキーが楽しめます。上級者向けコースから、クロスカンтриーコースやファミリーゲレンデまで多様なコースが楽しめます。



⑦ 白川溪谷

最上白川砂防ダムの周辺には、キャンプ場や遊歩道が整備された「最上白川溪流公園」があります。その上流の白川溪谷ではイワナ、ヤマメなどの渓流釣りが盛んです。



③ 封人の家 (国重要文化財)

元禄2年(1689年)5月、松尾芭蕉が2泊3日にわたって滞在した旧有路家の住宅です。芭蕉が宿泊した建物としては唯一残っている貴重なところです。



⑧ 瀬見温泉

義経弁慶伝説の名所旧跡が残る温泉。源頼朝の追っ手を逃れて平泉をめざしていた義経一行が発見したという伝説が語り継がれています。古くから新庄の奥座敷として賑わってきました。



④ 分水嶺

東側は江合川、旧北上川を経て116kmを下り、宮城県石巻市の太平洋へ。西は最上小国川、最上川を経て102kmを下り、山形県酒田市の日本海へ注ぎます。



⑨ ヤナ茶屋「もがみ」

ヤナ場でとれた魚を食べることができます。焼きたての鮎や最上生十割そばをはじめ地域の特産や逸品を直販しています。



⑤ 山刀伐峠

松尾芭蕉が通った峠として有名。「おくのほそ道」では最大の難所と記されています。現在では、歴史の道として保存整備されて、散策路となっています。



⑩ 富山馬頭観音

最上33観音の第31番札所。東北三大馬頭観音といわれています。古くから馬産地として有名であった最上町の馬を守護してくれる観音様として知られています。



お問い合わせ

山形県 最上総合支庁 建設部 河川砂防課
最上小国川ダム建設室

〒996-0002 山形県新庄市金沢字大道上2034

電話 / 0233-29-1407

FAX / 0233-23-2950